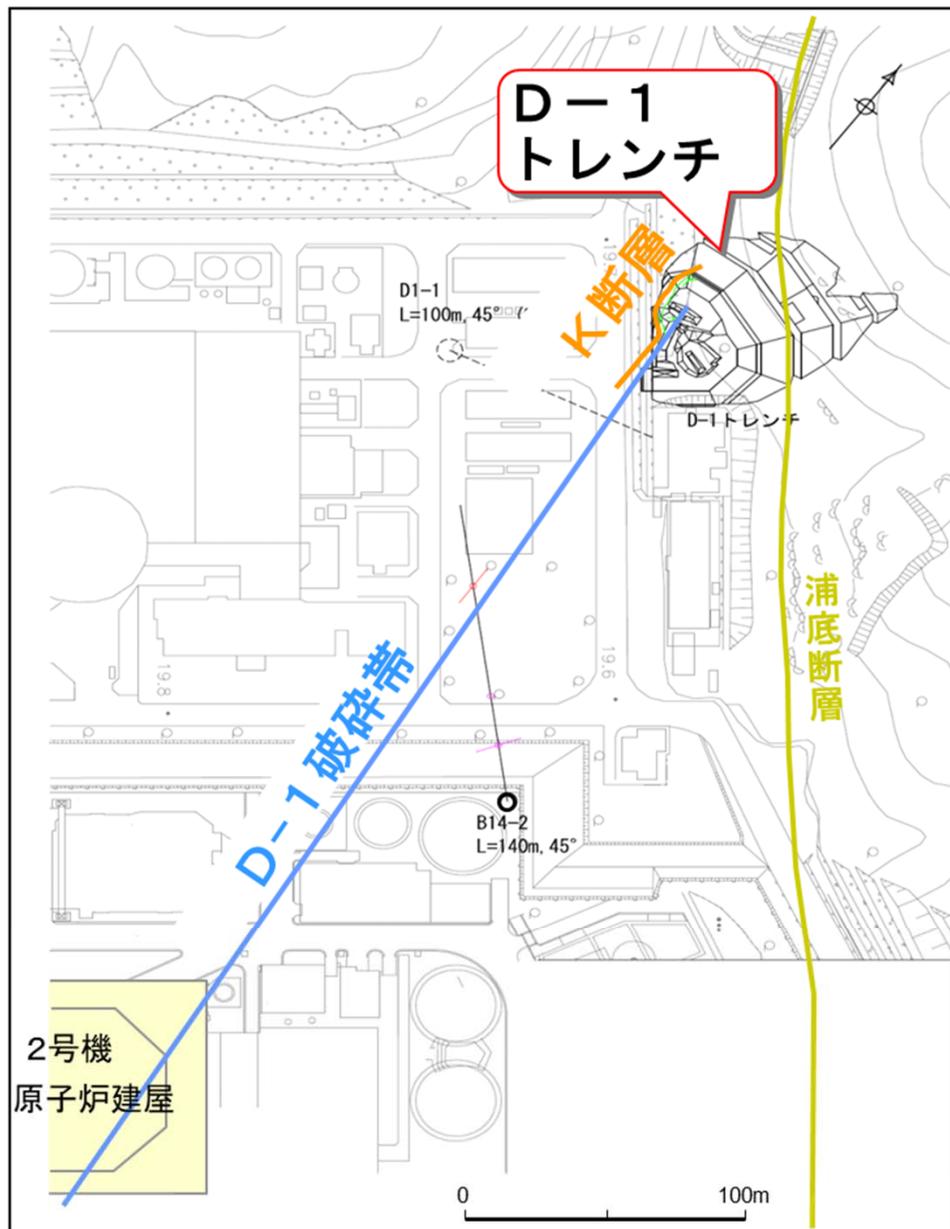


# K断層に係る審査の論点

2023年4月に、原子力規制委員会から、K断層の活動性及び連続性に関する補正書を提出するよう指導を受け、2023年8月に補正書を提出しました。



## 論点① K断層の活動性

(K断層は、12万～13万年前以降に動いたものかどうか)

活動時期は上載地層法による評価を基本

**上載地層法**：破砕帯を覆う地層（上載地層）の年代を特定することで、破砕帯の活動時期を判断する方法



破砕帯は、後期更新世以降（12万～13万年前以降）に動いていない。  
⇒活断層等でない



破砕帯は、後期更新世以降（12万～13万年前以降）に動いている。  
⇒活断層等である

- ・地層の堆積年代は、火山灰、花粉、OSL等の多様な手法で総合的に評価
- ・K断層による地層の変位・変形範囲の把握は、肉眼観察（地層の不整合関係の把握含む）、ブロック試料のCT画像分析、地層の走向・傾斜のシュミットネット分析等により実施

## ② K断層の南方への連続性

(K断層が、原子炉直下までつながるかどうか)

- ・原子炉建屋との間の計14本のボーリングコア試料に基づき、断層が過去に動いた痕跡（ずれの向きなど）の違いで評価（肉眼観察、薄片観察）
- ・K断層と南方の破砕部の活動時期の違いに着目し、南方の破砕部に鉱物脈法を適用（薄片観察）